

おじいちゃん・おばあちゃんと仲良し大作戦！

坂本 晃一

【推進員認定期】第2期 【所属】大田区立徳持小学校(教員) 【活動エリア】東京都足立区・大田区

| | |
|-------|--|
| 学習対象者 | 小学生（４年生） 中学生 高校生 住民 その他（ ） |
| 内 容 | 障がい理解（車いす体験、アイマスク体験、障がい者と交流、施設体験、その他（ ）） 高齢者理解（ <u>高齢者疑似体験</u> 、 <u>高齢者と交流</u> 、施設体験、その他（ ）） その他の理解（ ） |
| 所用時間 | 単元時間：４９時間（６か月間、総合的な学習の時間を活用） １回あたりの時数：２時間 |
| ねらい | 高齢者との関わりを通じて、尊敬の念とやさしさをもつ 高齢者とともに安心して仲良く暮らせる社会の大切さに気づく 問題解決のための方法を計画的に考え、人と関わりながら追求する力を育てる |

はじめに

本校(前任校である足立区立常東小学校)のある下町の千住地域は高齢者を多く見かける一方、祖父母と同居の児童が約３割にとどまった。

本校学区内の公園では、多くの高齢者が憩う様子が見られるが、その場で乱暴なボール遊びをする児童もいる。このことから、地域の高齢者との交流を通じて、高齢者に対する尊敬の念とやさしさが育まればと考えた。

実践内容

学区内の「老人会」との６回の交流を『メイン学習』とした。老人会が活動する団地集会室に、クラス児童全員が訪問し、「お年寄りに手芸を教わる」活動から交流を始めた。メイン学習の前後の教室での『つなぎ学習』では、事前学習や活動の振り返りをした。

【つかむ(20時間)】

児童の祖父母について考える、お年寄りイメージアンケート、地域の尺八名人・着物名人(高齢者)をお招きする。

高齢者疑似体験(東京ガス(株)の講師を依頼(企業の社会貢献活動を活用))

老人会との交流(ゲームで交流、折り紙を教わる、インタビューする)

【むかう(16時間)】

老人会との交流(パートナーと仲良くなる計画を立て実行する、昔の話を聞く、学校にお招きし歓迎会と交流給食会を開く)

『つなぎ学習』として、お年寄りについて本やDVDで学習する、招待状や手紙を書く。

【いかす(13時間)】

「共生社会のために自分ができること」を考える。ポスターちらしを作成し学区内でPRする。

ここがポイント！

まず、老人会との交流では「段階的」「継続的」をキーワードに実践していった。「つかむ」の段階では高齢者(名人)のゲストティーチャー1名に対し4年生全員という集団での関わり、その後の「むかう」の段階では、老人会パートナー1名に対し児童の小グループ3～4名の個別の関わりに発展させていった。こうすることで、導入では高齢者に対するイメージづくり、展開では高齢者個人への愛着を育てる流れになった。継続的交流では、最初はお年寄りから折り紙などを教えてもらう活動であったが、後半は児童自身がパートナーのことを考え、活動計画を組み立てるなど、思いやりを育てる活動になった。

次に、プログラムを組む際、「高齢者理解の学びのバランス」に気を使った。高齢者疑似体験による「年をとることによる生活のしずらさ」を学び、老人会パートナーとの交流では「お年寄りの価値ある人生や知恵」に触れ、老いというものを多角的に理解させることに気を使った。

最後に、メイン学習前後の『つなぎ学習』が、プログラム成功の鍵をにぎるということである。アンケート、プリントやビデオ学習、児童同士の話し合いと発表、振り返りカードの記入など、教室で行う事前事後学習のことである。メイン活動をやりっぱなしでなく、児童が自分の活動を見つめ、「何のために活動しているのか」ゆっくりと理解する時間だからである。したがって、つなぎ学習を十分練る必要がある。

成果と課題

【成果】 老人会との6回もの交流では、児童3～4名と老人会パートナー1名の組み合わせを毎回固定化した。おかげで、交流の最初はおっかなびっくり「おばあちゃん」と呼んでいた児童も、最後は「さん」と自然に笑顔で名前を呼ぶようになった。足が悪いパートナーをいたわる児童もいた。「お年寄りという、優しいし落ち着く」と感想を寄せる子や、放課後に公園でパートナーに会うと元気よく挨拶できるようになった子などが見られた。

老人会メンバーの中には子供がおらず団地で一人暮らしという方もいて、交流を依頼した際は、「子供と交流なんて無理！」と反対の声もあったそうである。しかし、交流終了後は「自分の孫のようでした。ぜひ来年も交流したい」と熱い要望が寄せられた。

【課題】 高齢者のパートナーには優しい言葉かけや態度を見せることはできても、一部の児童による友達へのいじめはなくならなかった。「思いやりの心の醸成」が、児童の身近な友達にまで結び付けられない、福祉教育の根本の問題にもつながる難しさを感じた。

